政策・経済センター 金成 大介

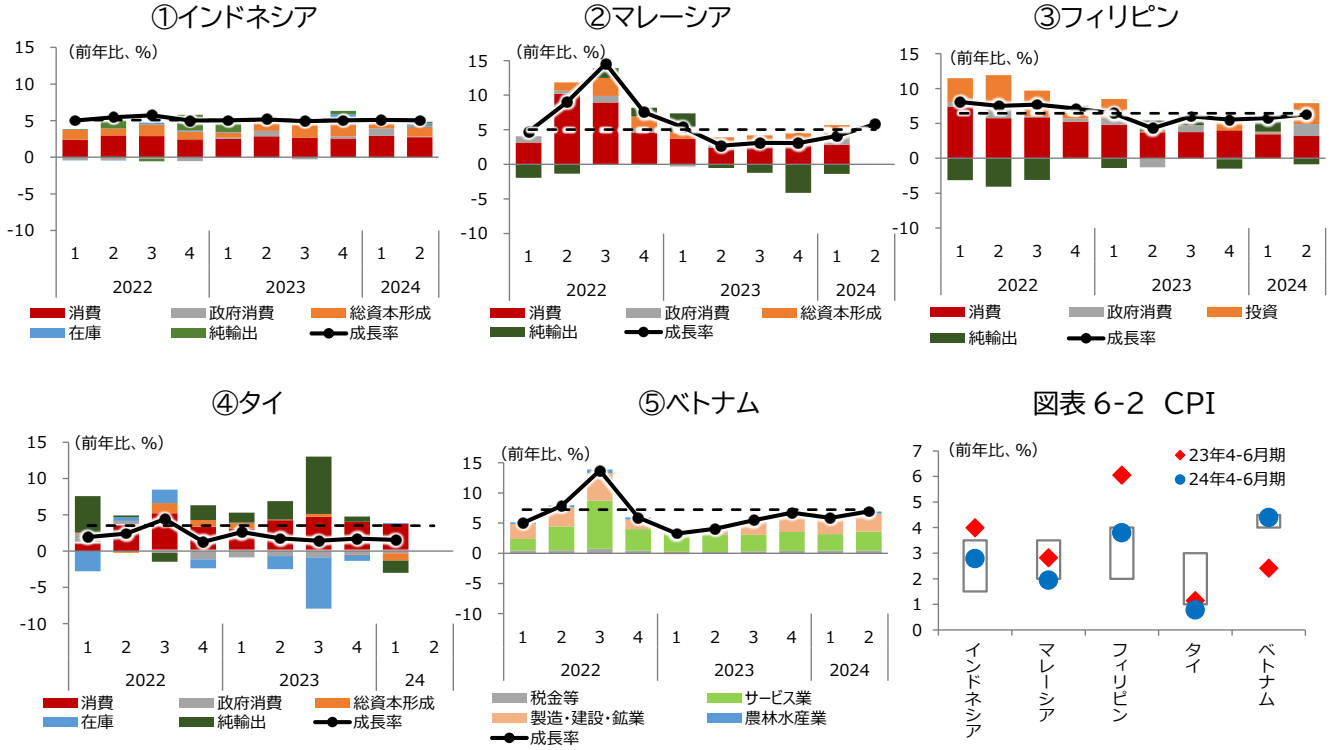
（1）ASEAN経済の現況

堅調な内需を背景に5%台前半の成長を確保

ASEAN5各国とも内需は堅調さを維持している。ASEAN5の24年4-6月期の実質GDP成長率は前年比＋5%台前半となり、23年10-12月期、24年1-3月（同+4%台半ばの成長率）から成長の勢いが強まった。消費拡大の懸念材料であったインフレ圧力は緩和し（図表6-2）、内需を押し上げている。

個別国では、輸出が好調なマレーシア（前年比+5.8%、図表6-1②）、フィリピン（同+6.3%、図表6-1③）、ベトナム（同+6.9%、図表6-1⑤）は成長の勢いが加速、総資本形成が堅調なインドネシア（同+5.0%、図表6-1①）もコロナ危機前に近いペースで成長している。金利上昇から自動車販売等の消費が伸び悩んでいるタイ（同+2%台半ばの見込み、図表6-1④）も輸出・観光回復から持ち直しに転じつつあるとみる。

図表 6-1 ASEAN の実質 GDP 成長率



注：破線は各国の17～19年の四半期ごとの実質GDP成長率（前年比）の平均。棒グラフ合計と折れ線グラフの差は、統計誤差。直近は、インドネシア、フィリピン、ベトナム、マレーシアは24年4-6月期、タイは24年1-3月期。マレーシアは速報ベースのため内訳は未公表。
出所：Macrobondより三菱総合研究所作成

図表 6-2 CPI

注：各年4-6月実績の平均。□は、24年のインフレ目標レンジ。マレーシアは、中銀見通し（インフレ目標はなし）。
出所：Macrobondより三菱総合研究所作成

（2）ASEAN経済の先行き・リスク

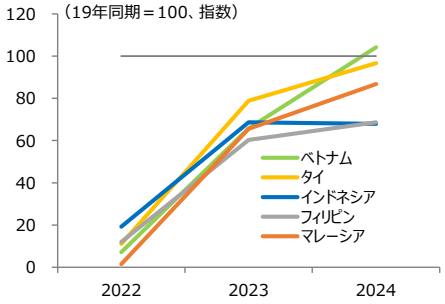
インフレ圧力緩和、観光回復に支えられ5%程度の成長確保

ASEAN5経済は、堅調な国内消費・投資需要のもと、内需主導の成長継続が見込まれる。実質GDP成長率は、24年、25年ともに前年比+5.0%（前回5月見通しから変更なし）と予測する。

ASEAN5各国とも、インフレ圧力緩和、財政支出の下支えのもと、内需は堅調さを維持することが見込まれる。24年に入り、中国人の海外旅行活性化が進み、中国人に人気の高いタイ、ベトナムをはじめASEAN5各国の外国人入国者数はもう一段の伸長を見せている（図表6-3）。観光回復も成長の押し上げ要因となろう。

先行きのリスクとしては、米中対立の深刻化による中国経済の減速、米国向け輸出停滞がある。2018年の米国の中国製品への関税

図表 6-3 外国人入国者数の回復状況



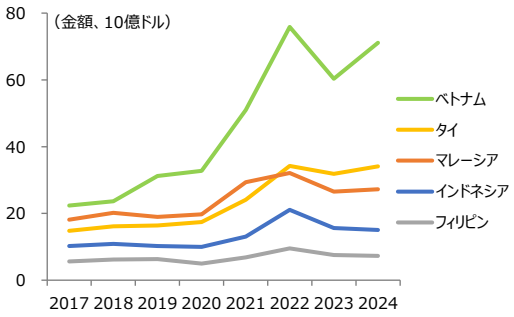
注：マレーシア以外は各年1-6月期、マレーシアは各年1-3月期。
出所：Macrobondより三菱総合研究所作成

Copyright© Mitsubishi Research Institute, Inc.

引き上げ以降、高関税を回避する手段として、中国で生産を行っていた企業が最終工程などを中国からベトナム、タイなどへ移している。その結果、ASEAN5経由での米国向け輸出が拡大し、ASEAN5経済の成長押し上げ要因となってきた（図表6-4）。

米国は、24年7月に中国製鉄鋼品のメキシコ経由の輸入を防ぐため、メキシコから輸入する鉄鋼製品に対して産地証明を導入している。中国製品の関税引き上げだけであれば、ASEAN5にとってはプラスに働くが（前掲、図表1-7）、大統領選挙後の新政権がASEAN5からの輸入品に対しても監視の目を強めると、ASEANからの米国向け輸出が停滞するリスクがある。

図表 6-4　米国の ASEAN からの輸入



注：各年1-6月期の実績。17年を基準に米国輸入デフレーターをもとに実質化。
出所：Macrobondより三菱総合研究所作成

Copyright© Mitsubishi Research Institute, Inc.